

研修10 アクティビティについて①

○研修のねらい

「研修10」では、授業におけるアクティビティの活用について、模擬授業を通して体験的に学ぶとともに、HRT（学級担任）とALTの役割について理解を深めます。また、児童がコミュニケーションの楽しさを実感できるような活動を設定できるようになることを目指します。

アクティビティの意義

他者とのコミュニケーションの基盤を養うためには、アクティビティを効果的に取り入れ、コミュニケーションの楽しさを実感する授業を目指すことが大切です。アクティビティを、授業の中で目的をもって取り入れることにより、テキストだけの学習でなく、楽しく学ぶ場の提供になります。また、アクティビティを様々な友達と行う中で、外国語を使って友達の考えを聞いたり自分の考えを伝えたりする楽しさを児童に味わわせるとともに、外国語に対してより高い関心・意欲をもたせることができます。

アクティビティを取り入れることで期待できる効果

○人と関わる楽しさを実感できる授業になる

児童は自分のことを表現することや友達の新たな一面を知ることで、人と関わる楽しさを実感し、積極的にコミュニケーションを図るようになります。「伝えたい」、「聞きたい」という思いが膨らむアクティビティを設定し、友達ともっと関わりたいという意欲を高めます。

○「言葉の力」を実感できる授業になる

アクティビティを行う際、使い慣れていない外国語を使用するためには、母語でのコミュニケーションでは見られない工夫が必要となります。コミュニケーションの難しさに直面することで、児童は言葉の有用性を実感するとともに、自分の思いが相手に伝わったという喜びや言葉の可能性に気付くことができます。

○自己肯定感を高めることができる授業になる

児童が達成感を味わったり互いの成長を実感したりできるように、アクティビティから得た学びや気づきを共有します。HRT（学級担任）やALTは積極的に他者と関わろうとした児童の姿を意図的に取り上げ、評価します。児童の自己肯定感は、自分のよさを確認したり友達から認められたりすることで高まります。

HRT（学級担任）とALTの役割と連携

アクティビティを取り入れた授業では、HRT（学級担任）とALTとが次のような役割分担をし、授業の計画・実施をします。

	HRT（学級担任）	ALT
授業前	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案を作成する。 ・ALTとの打合せ会を計画・運営する。 ・ALTへ授業の説明を行う。 ・教材や教具を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱う表現等に関して助言する。 ・HRTと協力し、教材や教具を作る。
授業中	<p>学習の流れをつかませる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語を用いてALTや児童と積極的にコミュニケーションを図る。 ・相手が話す内容、異国の文化や生活を肯定的に受け取る姿勢を示す。 	<p>本物の音声や英語の表現に触れさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が「外国語を話せた」、「楽しい」と実感できる存在となるように、コミュニケーションを図る。
	<p>児童の実態に基づいた学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の理解の様子を確認しつつ、授業を進める。 ・外国語でアクティビティの説明等を行う。 ・ALTに指示を出し、児童に繰り返し音声を聞かせる。 ・児童が積極的に発話や活動ができるように働き掛ける。 ・児童の学習状況を把握し、児童のつまずきに応じた適切な指導や支援を行う。 	<p>授業への補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HRTのモデルの提示等において、説明の補助を行う。 ・自国の文化や生活、諸外国の事象、事物に関する話題を提示する。 ・ネイティブ・スピーカーとしての正しい発音を繰り返し聞かせる。 ・児童が積極的に発話や活動ができるように働き掛ける。
	<p>HRTの視点からの評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が振り返る場面を設定する。 ・児童のコミュニケーションを図ろうとする態度や授業を通しての変容について評価する。 	<p>ALTの視点からの評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の活動の様子について技能面を中心に評価する。
	<p>授業後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材や教具を整理する。 ・授業計画や実際の授業展開について、ALTと振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HRTと授業を振り返り、HRTへ発音等の助言を行う。

研修10 アクティビティについて①

○事前に準備する物

- ・ Welcome to Tokyo Elementary 巻末の「観光スポットカード」
- ・ 絵カードやデジタル教材等、研修に応じた教材・教具
- ・ 研修10「解説編」(P54、55)

○研修の留意点

- ・ 指導経験のある教師と指導経験のない教師が偏らないようにグループを編成すること。

○研修例 (45分)

時間	研修項目	研修内容	使用する物
15分	○アクティビティについて知ること。	○ウォームアップを行う。 ○研修のねらいを伝える。 ○アクティビティの意義、アクティビティを取り入れた授業、HRTとALTの役割と連携について説明する。	・ 本書P54、55
27分	○アクティビティについて体験的に理解すること。 ○グループに分かれ、HRT役、ALT役、児童役を決め、アクティビティを取り入れた模擬授業を行うこと。	○HRT役、ALT役で模擬授業を行う。：5分 (例：Welcome to Tokyo Elementary「観光スポット」) ○研修対象者に実践させる。 【活動例】 ・ 説明する。：5分 ・ グループで考える時間：10分 ・ アクティビティの想定(ペア・グループ・一斉)を決める。 ・ P55を参考にして、HRT役、ALT役、児童役を決めて模擬授業をする。：7分	・ Welcome to Tokyo Elementary 巻末の「観光スポットカード」 ・ 絵カードやデジタル教材等、アクティビティの内容に応じて必要な物
3分	○研修を振り返ること。	○授業でどのようなアクティビティをやっていたかなどのアイデアを共有する。	

○研修例（15分）

時間	研修項目	研修内容	使用する物
5分	○アクティビティを取り入れた授業について考えること。	○研修のねらいを伝える。 ○アクティビティを取り入れた授業づくりについて説明する。	・本書P54、55 ・Welcome to Tokyo Elementary
10分	○アクティビティを体験すること。	○HRT 役、ALT 役、児童役で模擬授業を行う。	

※研修例（15分）の模擬授業例

HRT : Let's start a new activity.

ALT : OK! (児童にも促す) (児童 : OK!)

HRT : (児童へ向かって) Look.

HRT : (児童へ) Choose one card you like.

(ALT と HRT はそれぞれカードを1枚選ぶ)

HRT : (児童へ) Walk around and find a partner.

(ALT と HRT は歩き回る)

HRT : (児童へ) Make pairs.

(ALT と HRT は向かい合う)

HRT : (探している様子)

ALT : Where do you want to go? (繰り返す)

HRT : (カードを見せながら) I want to go to ...

How can I get to ...? (繰り返す)

ALT : Take the ... Line. (繰り返す) ↗

(Mita)

↘

HRT : Thank you very much.

ALT : You're welcome.

HRT : (児童へ) Switch roles.

ALT : (探している様子)

HRT : Where do you want to go? (繰り返す)

ALT : (カードを見せながら) I want to go to ...

How can I get to ...? (繰り返す)

HRT : Take the ... Line. (繰り返す)

(Oedo)

ALT : Thank you very much.

HRT : You're welcome.

ALT : Good-bye.

HRT : Good-bye.

HRT : (児童へ) Walk around and find a partner.

OK? (児童 : OK!)

アクティビティは、目的・場面・時間を意識します。

コラム

外国語活動・外国語科の授業では、音声表現を使った活動を基本としていくことが大切です。そこで、アクティビティを活用して、児童がリズムよく繰り返し発音し、自信をもって活動できるようにします。

そのためには、単に「児童が楽しそうだから」ではなく、アクティビティの効果を意識し、活動目的を明確にするとともに、授業で取り入れる場面や時間等を考えます。

例えば、1単位時間の学習の流れを作成した際、以下の点で振り返ります。

- ・単元の目標や本時の目標にとって適切な活動か。
- ・単元や本時の授業の中で、どの場面での活用が有効か。
- ・アクティビティを行う時間は適切か。 等